

## 二〇二三年度入学試験問題

## 国語 (六〇分)

## 注意事項

- 一、試験開始の合図があるまで、問題冊子は開かないでください。
- 二、この問題冊子は27ページあります。試験中、ページの脱落等に気づいた場合は、手を挙げて監督者に知らせてください。  
解答用紙(マークシート)の汚れなどに気づいた場合も、同様に知らせてください。
- 三、解答用紙(マークシート)は折り曲げたり、汚したりしないでください。
- 四、解答は、すべて解答用紙(マークシート)に記入し、解答用紙(マークシート)の枠外には、なにも書かないでください。
- 五、解答番号は、1～43まであります。  
解答用紙(マークシート)には、問題番号が1～50、選択肢が①～⑩まで印刷されていますが、解答にあたっては、各設問に指示された選択肢の数の中から選んで解答してください。
- 六、マークは必ずHBの黒鉛筆を使用し、訂正する場合は、完全に消してからマークしてください。
- 七、監督者の指示に従って、解答用紙(マークシート)に解答する科目・受験番号をマークするとともに、受験番号および氏名を記入してください。
- 八、解答する科目、受験番号、解答が正しくマークされていない場合は、採点できないことがあります。
- 九、試験終了後、問題冊子は持ち帰ってください。

## 問題一

次の文章を読んで、後の問に答えなさい。

問題にしない時には解り切ったことと思われるものが、さて問題にして見ると実に解らなくなる。そういうものが我々の身边には無数に存している。「顔面」もその一つである。(中略)

我々は顔を知らずに他の人と付き合うことが出来る。手紙、伝言等の言語的表現がそのバイカイをして呉れる。然しその場合にはただ相手の顔を知らないだけであって、相手に顔がないと思っていないのではない。多くの場合には言語に表現せられた相手の態度から、或は文字に於ける表情から、無意識的に相手の顔が想像せられている。それは通例極めて漠然としたものであるが、それでも直接逢った時に予期との合不合をはっきり感じさせるほどの力強いものである。況んや顔を知り合っている相手の場合には、顔なしにその人を思い浮べることは決して出来るものでない。絵を眺めながらふとその作者のことを思うと、その瞬間に浮び出るのは顔である。友人のことが意識に上る場合にも、その名と共に顔が出てくる。勿論顔の他にも肩つきであるとか後姿であるとか或は歩きぶりとかいうようなものが人の記憶に結びついてはいる。然し我々はこれらの一切を排除してもなお人を思い浮べ得るが、ただ顔だけは取り除けることが出来ない。後姿で人を思う時にも、顔は向うを向っているのである。

このことを端的に示しているのは肖像彫刻肖像画の類である。芸術家は「人」を表現するのに「顔」だけに切り詰めることが出来る。我々は四肢胴体が欠けているなどということに全然感じないで、そこにその人全体を見るのである。然るに顔を切り離れたトルソーになると、我々はその美しい自然の表現を見出すのであって、決して「人」の表現を見はしない。尤も芸術家が初めからこのようなトルソーとして肉体を取扱うということは、肉体に於て自然を見る近代の立場であって、もともと「人」の表現をねらっているのではない。A、「人」を表現して、しかも破損によってトルソーとなったものはどうであろうか。そこには明白に首や手足が欠けているのである。即ちそれは「断片」となっているのである。そうして見ると、胴体から引き離れた首はそれ自身「人」の表現として立ち得るに拘らず、首から離れた胴体は断片に化するということになる。顔が人の存在にとっていかに中心的地位を持つかはここにロコツに示されている。

この点を更に一層突き詰めたのが「面」である。それは首から頭や耳を取り去ってただ顔面だけを残している。どうしてそういうものが作り出されたか。舞台の上で一定の人物を表現するためにである。最初は宗教的な儀式としての所作事にとって必要であった。その所作事が劇に転化するに従って登場する人物は複雑となり面もまた分化する。かかる面を最初に芸術的に仕上げたのは希臘人であるが、しかしその面の伝統を持続し、それに優れた発展を与えたものは、他ならぬ日本人なのである。

昨秋表慶館に於ける伎楽面、舞楽面、能面等の展観を見られた方は、日本の面に如何に多くの傑作があるかを知っていられるであらう。自分の乏しい所見によれば、希臘の仮面はこれほど優れたものではない。それは単に王とか王妃とかの「役」を示すのみであつて、伎楽面に見られるような一定の表情の思い切つた類型化などはクワダてられていない。かと云つて能面の或者のように積極的な表情を注意深く拭い去つたものでもない。面に於けるこのような芸術的苦心は恐らく他に比類のないものであらう。このことは日本彫刻家の眼が肉体の美しさよりもむしろ肉体に於ける「人」に、従つて「顔面の不思議」に集中していたことを示すのではなからうか。

がこれらの面の眞の優秀さは、それを柵に並べて、彫刻を見ると同じようにただ眺めたのでは解らない。面が面として胴体から、更に首から、引き離されたのは、丁度それが彫刻と同じに取扱われるのではないがためである。即ち生きて動く人がそれを顔につけて一定の動作をするがためなのである。然らば彫刻が本来静止するものであるのに対して、面は本来動くものである。面がその優秀さを眞にハッキリするのは動く地位に置かれた時でなくてはならない。

伎楽面が喜び怒り等の表情をいかに鋭く類型化しているか、或は一定の性格、人物の型などをいかに際どく形づけているか、それは人がこの面をつけて一定の所作をする時に本當に露出して来るのである。その時にこそ、この顔面に於て、不必要なものがすべて抜き去られていること、ただ強調せらるべきもののみが生かし残されていることが、はつきり見えて来る。

実際に生きてゐる人の顔面よりも幾倍か強く生きてくるのである。舞台上動く伎楽面の側に自然のままの人の顔を見出すならば、その自然の顔がいかに貧弱な、みすばらしい、生気のないものであるかを痛切に感ぜざるを得ないであらう。芸術の力は面に於て顔面の不思議さを高め、強め、純粹化しているのである。

伎楽面が顔面に於ける「人」を C 強調し純粹化しているとすれば、能面はそれを D 徹底せしめたと云えるであらう。

伎楽面がいかに神話的空想的な顔面を作つても、そこに現わされているものは何時も「人」である。たとい口が喙になつていても、我々はそこに人らしい表情を強く感ずる。然るに能面の鬼は顔面から一切の人らしさを消し去つたものである。これもまた凄さを具象化したものとは云えるであらうが、然し人の凄さの表情を類型化したものとは云えない。総じてそれは人の顔の類型ではない。能面のこの特徴は男女を現わす通例の面に於ても見られる。それは男であるか女であるか、或は老年であるか若年であるか、とにかく人の顔面を現わしてはいる。然し喜びとか怒りとかという如き表情はそこには全然現わされていない。人の顔面に於て通例に見られる筋肉の生動がここでは注意深く洗い去られているのである。

尉や姥の面は強く死相を思わせるものである。このように徹底的に人らしい表情を抜き去つた面は、恐らく能面以外にどこにも存しないであらう。能面の与える不思議な感じはこの否定性に基いていのである。

F この能面が舞台上に現われて動く肢体を得たとすると、そこに驚くべきことが起ってくる。というのは表情を抜き去ってある筈の能面が実に豊富極まりのない表情を示し始めるのである。面をつけた役者が手足の動作によって何事かを表現すれば、そこに表現せられたことは既に面の表情となつてゐる。例えば手が涙を拭うように動けば、面は既に泣いてゐるのである。更にその上に「謡」のセンリツによる表現が加わり、それが悉く面の表情になる。これほど自由自在に、また微妙に、心の陰影を現わし得る顔面は、自然の顔面には存しない。そうしてこの表情の自由さは、能面が何等の人らしい表情をも固定的に現わしてゐないということに基くのである。笑つてゐる伎楽面は泣くことは出来ない。然し死相を示す尉や姥は泣くことも笑うことも出来る。

このような面の働きに於て特に我々の注意を引くのは、面がそれを被つて動く役者の肢体や動作を己れの内に吸収して了うという点である。実際には役者が面をつけて動いてゐるのではあるが、しかしその効果から云えば面が肢体を獲得したのである。もし或る能役者が、女の面をつけて舞台上に立つてゐるに拘らず、その姿を女として感じさせないとすれば、それはもう役者の名には値しないのである。否、どんな拙い役者でも、或は素人でも、女の面をつければ女になると云つてよい。それほど面の力は強いのである。従つてまた逆に面はその獲得した肢体に支配される。というのは、その肢体は面の肢体となつてゐるのであるから、肢体の動きはすべてその面の動きとして理解され、肢体による表現が面の表情となるからである。この関係を示すものとして例えば神代神楽を能と比較しつつ考察して見るがよい。同じ様式の女の面が能の動作と神楽の動作との相違によつて如何に甚だしく異つたものになるか。能の動作の中に全然見られないような、柔かな、女らしい体のうねりが現われてくれば、同じ女の面でも能の舞台で決して見ることに出来ない艶めかしいものになつて了う。その変化は實際人を驚かせるに足る程である。同じ面がもし長唄で踊る肢体を獲得したならば、更にまた全然別の面になつて了うであらう。

以上の考察から我々は次のように云うことが出来る。面は元來人体から肢体や頭を抜き去つてただ顔面だけを残したものである。然るにその面は再び肢体を獲得する。人を表現するためにはただ顔面だけに切り詰めることが出来るが、その切り詰められた顔面は自由に肢体を回復する力を持っている。そうして見ると顔面は人の存在にとつて核心的な意義を持つものである。それは単に肉体の一部分であるのではなく、肉体を己れに従える主体的なるものの座、即ち G の座に他ならない。

(和辻哲郎『面とペルソナ』による)

(注) 1 トルソー……頭部や四肢のない胴体だけの彫像。

2 表慶館……東京都台東区上野公園の東京国立博物館にあるルネサンス様式の建造物。

3 伎楽面、舞楽面、能面……伎楽面は、日本最初の外来楽舞である伎楽に用いられる面。帽子のようにかぶるので後頭部までつくられ、大きいのが特徴。舞楽面は、唐楽や高麗楽を伴奏とする舞踊である舞楽に用いられる面。能面は、能に用いられる面。伎楽面、舞楽面よりも薄く小さめにつくられている。

4 尉や姥……尉は老翁の役。また、それに用いる能面。姥は老女の役。また、それに用いる能面。

5 神代神楽……神に奉納する神楽。

6 長唄……三味線歌曲。歌舞伎舞踊の伴奏音楽として、当時の流行歌なども取り入れて発達した。

問一 傍線部 a・e・g・h・j と同じ漢字を含むものはどれか。次の 1～4 のうちから最も適当なものをそれぞれ一つずつ選びマ

クしなさい。解答番号は  ～  。

a 「バイカイ」

- 1 バイウの候いかがお過ごしでしょうか。
- 2 バイシン員は事件ごとに選任される。
- 3 バイシヤク人として結婚式に出席する。
- 4 事故を起こしバイシヨウを求められた。

e 「ロコツ」

- 1 コツケイな演出に皆が笑った。
- 2 問題のコツシを説明する。
- 3 彼はレイコクな人だとうわさされている。
- 4 この建物についてはコクメイな記録が残されている。

g 「クワダて」

- 1 この国は多様な民族をホウガンしている。
- 2 その問題の解決サクを思いついた。
- 3 その学生はキシユクシヤに住んでいる。
- 4 その会社は海外進出をキトしている。

h「ハツキ」

- 1 出合いがキエンとなり、新たな道が開けた。
  - 2 両者の考えは次第にキを一にしていた。
  - 3 注意カンキのポスターを掲示する。
  - 4 この薬品にはキハツ性があるので蓋をしてください。
- j「センリツ」
- 1 その人物は今や人々のセンボウの的だ。
  - 2 その組織は人々をセンドウして反乱を起こさせた。
  - 3 その歌手は音楽界に一大センブウを巻き起こした。
  - 4 その大会では無名の選手たちが上位をドクセンした。

問二

傍線部b「予期との合不合」とあるが、それはどのようなことか。次の1～4のうちから最も適当なものを一つ選びマークしなさい。解答番号は 6。

- 1 想像していた相手の顔と実際に目にした相手の顔が合致するかどうかということ。
- 2 実際に逢った相手の顔が、それまで予期していた顔の記憶を消し去るということ。
- 3 相手に予期し期待していたことが現実を前になると崩れ落ちてしまうということ。
- 4 無意識に想像していた相手の顔が、実際の顔と違ってゐるのは当然だということ。

問三

傍線部c「然し我々はこれらの一切を排除してもなお人を思い浮べ得るが、ただ顔だけは取り除けることが出来ない」とあるが、それはなぜか。次の1～4のうちから最も適当なものを一つ選びマークしなさい。解答番号は 7。

- 1 人の名前や体つきよりも顔を思い出す方が他者への正確な理解につながるから。
- 2 人の後姿や体の一部よりも、顔は極めて漠然と想像されるから。
- 3 人の顔は無意識に思い浮かんでくるため、記憶から顔を排除するには意志が必要だから。
- 4 人の存在にとって、中心的な地位を占める最たるものは顔に他ならないから。

問四 空欄

A

・

B

・

E

・

F

適切なものを一つ選びマークしなさい。解答番号は 8。

- 1 A そこで B ところで E なぜなら F しかし
- 2 A 例えば B しかも E そして F 更に
- 3 A それでは B また E だから F ところで
- 4 A あるいは B また E しかし F つまり

問五

傍線部 d「そこには明白に首や手足が欠けて、いるのである」とあるが、それはどのようなことか。次の 1～4のうちから最も適当なものを一つ選びマークしなさい。解答番号は 9。

- 1 首や手足を切り離されたトルソーを鑑賞する時、大抵の人は、切り離されたはずの首や手足そのものの存在が気になってしかたがなくなるといふこと。
- 2 もともと「人」を表現するためにつくられた芸術作品は、破損により首や四肢を失った場合、存在するべき部分を欠損した断片という意味しか持ちえないといふこと。
- 3 「人」を芸術的に表現するためには首から上がなくてはならないが、「人」よりも自然を重視した近代のトルソーは、明らかに顔や手足の存在を否定しているといふこと。
- 4 首から切り離れた四肢胴体の彫刻や肖像は、体の一部が欠けた「人」を表現した芸術として成立しうるが、胴体から切り離された首の方が「人」として存在感を放つといふこと。

問六

傍線部 f「この点を更に一層突き詰めたのが「面」である」とあるが、「面」の説明の内容として正しいものはどれか。次の 1～4のうちから最も適当なものを一つ選びマークしなさい。解答番号は 10。

- 1 伎楽面の特徴は、能面とは異なり、顔面から人らしさを抹消した点にある。
- 2 神楽と能の動作は異なるが、「面」の表情はまったく変わることはない。
- 3 「面」は、人がそれをつけて動かした時にこそ、優れた点を露わにするものである。
- 4 「面」とは、総じて人間らしさを類型化した芸術作品のことである。

問七

傍線部「舞台で動く伎楽面の側に自然のままの人の顔を見出すならば、その自然の顔がいかに貧弱な、みすばらしい、生気のないものであるかを痛切に感ぜざるを得ないであろう」とあるが、それはなぜか。次の1～4のうちから最も適当なものを一つ選びマークしなさい。解答番号は 。

- 1 自然のままの人の顔は、舞台芸術として演出される伎楽面などと比較した時にこそ、普段は気がつかない負の側面を見せるから。
- 2 伎楽面は、喜びや怒りの表現を鋭く類型化しているか、一定の性格や人物の型を表しているため、現実の平凡な顔面の人間よりも魅力的に見えるから。
- 3 舞台上で強調された伎楽面と、自然のままの人間の顔とを比較すると、生身の人間の顔はどうしても静的なものにしか感じられないから。
- 4 伎楽面は、強調されるべきものだけが生かされた面であることを舞台上で露呈させることで、生身の人間の表情より強い印象を与えうるから。

問八

空欄  ・  にあてはまる語句の組み合わせはどれか。次の1～4のうちから最も適当なものを一つ選びマークしなさい。解答番号は 。

- 1 C 積極的、消極的に
- 2 C 消極的に、積極的に
- 3 C 象徴的に、具体的に
- 4 C 観念的に、現実的に

問九 傍線部k「笑っている伎楽面は泣くことは出来ない。然し死相を示す尉や姥は泣くことも笑うことも出来る」とあるが、それはな

ぜか。次の1～4のうちから最も適当なものを一つ選びマークしなさい。解答番号は 13。

1 伎楽面は表情が固定された感情表現が難しい面であるのに対し、能面は筋肉の生動を洗い去られているため多様な解釈が可能であるから。

2 伎楽面はある感情や人物を類型化しているが、能面は表情を排除しているため、役者の動作や音楽により自由に表情を演出することが可能だから。

3 伎楽面は表情が一つの感情に固定されているため他の演技は出来ないが、死相を表す能面は、舞台上で観客の想像力をかき立てるから。

4 伎楽面は自由自在に「人」の心の陰影を表すことが出来るが、喜怒哀楽のいずれかに類型化されているため、死相を表す能面に逆説的に劣るから。

問一〇 傍線部l「同じ面がもし長唄で踊る肢体を獲得したならば、更にまた全然別の面になって了うであろう」とあるが、それはなぜ

か。次の1～4のうちから最も適当なものを一つ選びマークしなさい。解答番号は 14。

1 同じ面でも、動きの異なる肢体を獲得した場合は、肢体の動きに面が吸収され、表情がまったく変わって見えるから。

2 歌舞伎の伴奏音楽である長唄で能を舞うとなると、能面がまったく別の面に見えるほど動作の違いの影響力は強いから。

3 肢体の動きも面の動きとして理解されるほどに面の力は強いいため、肢体の動きによって面の表情が異なって見えるから。

4 背景で流される音楽が変わると、同じ面の表現であっても動きが変わるため、芸術表現に別の側面が現れてくるから。

問一一 空欄 G にあてはまる語句はどれか。次の1～4のうちから最も適当なものを一つ選びマークしなさい。解答番号は

15。

1 役割

2 精神

3 霊魂

4 人格

## 問題二 次の文章を読んで、後の問に答えなさい。

人類は農業を発明したことによって定住生活を始め、穀物<sup>Ⅱ</sup>富の蓄積が可能になって社会の階層化が起こった。また内燃機関の発明から始まった産業革命によって人類は莫大な生産力を獲得し、人口の急激な増加が起き、最低生活費水準の生活を脱して余暇を楽しむ余裕を得た。資本主義や民主主義も産業革命によって惹起されたものである。このようにテクノロジーは私たちの生活のあり様と生活様式、及び社会の仕組みを規定する。

実は私たちの生活や社会の仕組みを規定しているものが、もう一つある。

「物語」である。

テクノロジーは人々の生活や生産活動において何ができるのかを物理的に規定するが、どのような世の中が望ましいのか、どのような生活と人生を送りたいのか、何が善で何が悪かといった世の中のあり得べき姿を描き出すのが物語である。人間を「ホモ・サピエンス」と言うが、ホモ・サピエンスとは賢い人という意味である。他の動物が持つていない人間ならではの賢さの象徴が道具と言葉とされる。道具を作り出す「テクノロジー」と言葉によって紡ぎ出される「物語」が世の中の仕組みと人生のあり方を決めているのである。

本節ではまず物語が人間にとつていかに本質的なものであるかを示し、次いで物語が持つ大きな力、それは時にテクノロジー以上の力として社会を動かし、社会のあり様を強力に規定することについて説明する。

人間が世の中の何たるか、人と人との関係がいかなるものか、そして自分とは何者なのかについて理解し、認識しているのは物語によつてである。産まれたばかりの赤ちゃんの時は泣くとミルクを飲ませてくれたり、オムツを取り替えてくれたりというアクション&リアクションの対応関係を認知するにすぎないが、言葉を覚えるようになって来ると対象を繋ぎ合わせて、周りの出来事を一連の物語として理解するようになる。何をしたら褒められたのか、何をすると痛い思いをするのか、何をしてはいけないのか等々、自分と周りの対象を「なぜなのか」そしてどうなるのか」という物語様式で理解・解釈していく。使える言葉が増えて来ると嘘<sup>ウソ</sup>Ⅱ物語(フィクション)そのものまで作れるようになる。更には見たこともない、触れたこともない事象まで、それまでに得ていた事象に関する知識・経験を組み合わせ、即ち物語を作り上げて認知・理解しながら成長していく。

例えば子供は童話や絵本といった物語を通して社会のルールや価値観を身につける。イソップ寓話の「アリとキリギリス」の話を聞いてキンベンの価値を学んだり、日本昔話の「鶴の恩返し」の話で他者への優しさや返報の大切さを知る。子供が幼稚園や学校に行くよう

になると、そこで起きる事象、例えばだれかとケンカしたり、仲直りしたりといった出来事を自ら物語化して解釈したり、先生が物語化してサト<sup>d</sup>してくれたりすることで人間関係や社会のメカニズムを学んでいく。このように人間は周りの事象を物語として認知し、「世界はどのようなものであるのか」と「自分は何者であるのか」を学習・探索しながら生きていくのだ。物語は人間にとって根源的な認知の方法論なのである。

言語の使用が人間を人間たらしめていると言われるが、実は言語を使用する生物は人間だけではない。物語こそが他の動物にはない人類だけの能力である。

猿が発する鳴き声のパターンはその群れの中で共有される意味を持つ。敵やエサの存在を教え合ったり、群れのトウセイ<sup>g</sup>を指示したりするのに多くの言葉が使われている。イルカやクジラは超音波を使って互いの名前を呼び合ったりしている。生物として進化のレベルの高い哺乳類だけでなく、ミツバチも羽音とダンスによって他のミツバチに蜜の所在や水源の場所を伝えたりしている。簡易的な言語によるコミュニケーションは多くの生物が行っているものであり、人間だけが特権的に言語を使用しているわけではない。

人間だけにしかできない言語の活用方法とは、他の生物が行っている簡易的なコミュニケーションでは扱えない虚構や抽象概念を含んで複雑に構成・創作される「物語」を扱うことなのである。

物語は人間の個体にとって根源的であるだけではない。種族・部族・民族といった集団としての人間にとっても根源的・本質的な役割を持つ。

その最たるものが神話である。

神話は文字が発明される数千年前には登場した、人類が生み出した最も古い物語であり、人類と物語の関係性が原初的な形で表れている。従って神話の成り立ち方や神話が果たして来た役割を確認することは、人類史において物語が担っている機能を理解することに有効である。

世界中の部族がそれぞれの神話を持っているが、世界には約七〇〇〇もの言語があるように神話の数も同程度存在する。二〇世紀後半になってレヴィ<sup>h</sup>・ストロースら文化人類学者が行った世界中の多数の神話調査によって、興味深い発見がなされた。世界中の全ての神話には驚くほど共通項があるのだ。世界中のほとんどの部族の神話は、世界の成り立ちを示した「創世の話」と自分たちがどこから来たのかを語った「部族の来歴の話」によって構成されているのである。ヨーロッパでは、神が天と地を創り、光を創り、空や海や大地を創り、魚と鳥と獣を創り、最後に人間を創ったという旧約聖書の「天地創造」とアダムとイブが蛇にそそのかされて楽園を追い出された

いきさつを書いた「失楽園」やモーゼがヘブライ人を率いてエジプトを脱出し約束の地を目指す「出エジプト記」がそれである。日本では『古事記』のイザナギ、イザナミの二神が掻き回した矛からしたり落ちた一滴一滴が日本を構成する八つの島になったという「国生みの話」と、天照大御神が高天原から高千穂へニギノミコトを遣わせたという「天孫降臨の話」がそれに当たる。

このように、世界がどのように誕生したのかを表した「創世」と、自分たちは何者でありどこから来たのかを語った「来歴」が、世界中の神話に共通した主たる構成要素になっているという事実が示すのは、この二つの要素が人間集団(部族)の根源的な認知の対象であり、集団の紐帯を形成する要因になっているということである。言い換えると、世界観と自分たちの来歴を共有することによって一つの部族としてまとまった集団の形成が可能になったと考えることができよう。

原始的な部族間の闘いが繰り返されてきた太古においては、集団として一致団結できるかどうかは部族の存亡に関わる重大事である。おそらく部族神話を持っておらず集団として一致団結できなかった部族は、他の部族によって早々に滅ぼされてしまったであろう。つまり、神話は世界がどう成り立ちをしているのかという「世界観」と自分たちは何者であるのかという「アイデンティティー」からなる人間にとって最も根源的な二つの認知を示すものであると同時に、部族の組織化を図ることによって生存確率を高める役割を担っていたと理解することができる。そして、こうした人間の集団にとって不可欠で重要な機能、即ち世界観、アイデンティティー、及び組織化の仕組みを担う神話が「物語」として形成されていたことは、物語が人間の集団にとっていかに根源的、本質的であるのかを文字通り物語っている。

世界の起源や部族の来歴といった思弁的なストーリーを創作して仲間へ伝達したり、神や宗教といった抽象的な価値に関する物語を扱えるようになったことが人間の集団を高度で強力なものにした。こうした高度で思弁的な物語を創作し共有することができたからこそ、大集団の統合と組織的分業が可能になり、階級社会を構築し、宗教や法律を生み出しすることが可能になったのだ。

人間を人間たらしめている物語は、人間の自由な想像力によって紡ぎ出されるものであるため無数のバリエーションが可能である。アリもキリギリスも猿も犬も猫も、少年も老婆も王様も泥棒も、ドラゴンもセイレイも宇宙人も登場させることができるし、天国や地獄を描くこともできるし、海底世界や太古の見知らぬ国を舞台にすることもできる。闘いが起きたり、恋愛に落ちたり、友情や裏切りがあったり何でも起こすことが可能である。ストーリーは文字通り無限である。

しかし、人々の心を動かし集団で共有される物語には共通性があることが、物語論の研究によって明らかになってきた。一人一人の人間は多様性に富んでおり、世の中で起きる出来事は無限に多様であるが、人間は皆豊かさや自由を求めて生きているように、個別に

見れば千差万別であり得る物語にも古今東西を超えて人間が感動し共有され得る普遍的なパターンが存在する。

先にレヴィ＝ストロースら文化人類学者が世界中の多数の神話を分析して、神話が「創世」と「来歴」という二つのファクターをもって構成されているという発見を紹介したが、ロシアの民俗学者ウラジミール・プロップやアメリカの神話学者ジョーゼフ・キャンベルらの研究によって、太古から伝わる物語には極めてシンプルで普遍的なパターンが存在することが明らかにされた。

数多の物語は因果応報の物語、恋愛の物語、英雄の物語等いくつか大別されるが、全ての物語のコンテンツは三種類の要素によって成り立っていると発見したのがプロップである。つまり世界中に数多の物語が存在するが、それらの物語を構成要素に分けて整理してみると、因果応報の物語、恋愛の物語、英雄の物語も全て、主人公が試練を受ける、主人公が仲間の助けを得る、主人公の敵が罰せられる、というような三つの要素の組み合わせによって成り立っているという物語の仕組みを解明したのである。

それらの物語群の中でも特に人気があつて、どの地域でもどの民族でも語り継がれている英雄の物語は全て同じパターンのストーリー展開になっているということを発見したのがキャンベルである。具体的には、全ての英雄譚は、

- ① 主人公が日常を離れて冒険の旅に出る
- ② 旅先で強力な敵や難題に遭遇する
- ③ 苦勞の末、敵や難題に打ち勝つ
- ④ 日常の世界に戻る

というパターンの展開になっているのである。

こうしたプロップやキャンベルの物語分析が興味深いのは、彼らが発見したストーリー展開のパターンは、多くの地域や民族の神話や昔話に共通しているだけでなく、現代の作品にも同様に当てはまる点である。

(中略)

人々が感動し面白いと感じる物語にはシンプルな共通パターンが存在するという事実の根底にあるのは、人間の感情と共感の普遍性である。昔も今も、西洋人も東洋人も、人間は同じ物語に共感し感動するのである。

実は、物語を語るための言葉も世界で七〇〇以上あると言われ、一見千差万別であるが、人間の脳の情報処理パターンを根拠とする単一の普遍文法から生成されていることを明らかにしたのがノーム・チョムスキーの「普遍文法理論」である。人間の脳の情報処理回路の生物学的普遍性によって普遍文法が存在しており、その普遍文法が環境や活動パターンの影響を受けて、七〇〇〇以上の自然言語を形成したとする理論である。どの民族・部族の神話も「創世」と「来歴」で構成されていたり、物語が単一の構造と展開でできていた

り、という物語の共通性と同様の構造が言語そのものにも見ることができるのである。<sup>n</sup>  
つまり、一見多様で千差万別に見える言語も物語も、人間の脳のメカニズムに起因する情報処理回路と生物としての認知対象の共通性によって、普遍的パターンが存在するのである。

(波頭亮『文学部の逆襲―人文知が紡ぎ出す人類の「大きな物語」による』)

(注) 1 レヴィ・ストロース……フランスの社会人類学者、民族学者(一九〇八～二〇〇九)。アメリカ先住民の神話研究で著名。

2 ウラジミール・プロップ……ロシア(ソ連)の民族学者(一八九五～一九七〇)。『昔話の形態学』は、民話の構造分析の先駆的著作として世界的な反響を呼んだ。

3 ジョーゼフ・キャンベル……アメリカの神話学者(一九〇四～一九八七)。比較神話学や比較宗教学で知られる。

4 ノーム・チョムスキー……アメリカの言語学者、思想家(一九二八～)。言語学史上の一大革命ともいえるべき生成文法理論の提唱者。

問一 傍線部 a・e・k の語句の意味はなにか。次の 1～4 のうちから最も適当なものをそれぞれ一つずつ選びマークしなさい。解答

番号は 16 18。

a 「紡ぎ出される」

- 1 (合わされたものが)ほどかれる
- 2 おおまかに作られる
- 3 たぐりよせられる
- 4 形にされる

e 「人間を人間たらしめている」

- 1 人間を人間として存在させている
- 2 人間を人間として生かしている
- 3 人間を人間に思わせている
- 4 人間を人間らしく見せている

k「思弁的な」

- 1 自分の経験を踏まえ、物事を判断するさま
- 2 自分の頭の中だけの純粋な思考で物事を判断するさま
- 3 実際に見聞きしたことと得た知識や技術で物事を判断するさま
- 4 昔話や伝聞をもとにして、頭の中で想像を加え物事を判断するさま

問二

傍線部b「物語を作り上げて認知・理解しながら成長していく」とあるが、具体的にはどのようなことを「認知・理解」するのか。

- 1 他者へのやさしさや報復
- 2 自己愛や社会のメカニズム
- 3 アクションとリアクション
- 4 社会のルールや価値観

問三

傍線部c・d・g・lと同じ漢字を含むものはどれか。次の1～4のうちから最も適当なものをそれぞれ一つずつ選びマークしなさい。解答番号は  ～  。

c「キンベン」

- 1 昨日はアユ漁のカイキン日だったので、多くの釣り人でぎわっていた。
- 2 彼はキンゲンジツチョコな仕事ぶりが評価され、若くして課長になった。
- 3 彼女は高校の三年間、一日も休まなかったのでカイキン賞をもらった。
- 4 この建物は原始的ではあるが、一種のキンセイの美を持っている。

d「サトシ」

- 1 病人や乳児の流動食にはオモユがよく用いられる。
- 2 いくらセツユしても、彼にはその効果があらわれない。
- 3 昨日は久しぶりの同窓会だったので、ひと時をユカイに過ごした。
- 4 高校二年の夏休みに、あの寺院創建のユエンを調査してレポートにまとめた。

g「トウセイ」

- 1 戦争は終わったが、平和はトウライしなかった。
- 2 大臣の諮問に対するトウシン案を作成するのは大変だ。
- 3 競馬では、ケツトウは決して無視できない要素だ。
- 4 彼は太宰治にケイトウしている。

1「セイレイ」

- 1 彼はゼンシンゼンレイを仕事に打ち込んだ。
- 2 ビジレイクを並べ立てるような人間は、あまり信用できない。
- 3 贈り物よりヘンレイ品の方が高価で、恐縮してしまった。
- 4 ワールドカップに参加する選手団をゲキレイした。

#### 問四

傍線部f「物語こそが他の動物にはない人類だけの能力」とあるが、それはどのようなことか。次の1～4のうちから最も適当なものの一つを選びマークしなさい。解答番号は 24。

- 1 「物語」は人間によって創作されたものであり、その創作に当たっては他の動物が持たない意味の共有化という能力が使用されているということ。
- 2 虚構や抽象概念を含んで複雑に構成・創作される「物語」を扱うという言語の活用方法は人間特有のものであるということ。
- 3 人間だけが持つ簡易的コミュニケーションによって構成・創作されるのが「物語」だということ。
- 4 簡易的な言語による虚構や抽象概念を含んで構成・創作される「物語」を扱う能力は人間特有のものであるということ。

問五 傍線部h「それに当たる」とあるが、具体的にはどのようなことか。次の1～4のうちから最も適当なものを一つ選びマークしなさい。解答番号は 25。

- 1 『古事記』の「国生みの話」が「失楽園」に、「天孫降臨の話」が「出エジプト記」に、それぞれ該当すること。
- 2 『古事記』の「国生みの話」が「部族の来歴の話」に、「天孫降臨の話」が「天地創造」に、それぞれ該当すること。
- 3 『古事記』の「国生みの話」が「出エジプト記」に、「天孫降臨の話」が「部族の来歴の話」に、それぞれ該当すること。
- 4 『古事記』の「国生みの話」が「創世の話」に、「天孫降臨の話」が「部族の来歴の話」に、それぞれ該当すること。

問六 傍線部i「世界観」とあるが、本文中で使用されているこれと似たような意味の語句はどれか。次の1～4のうちから最も適当なものを一つ選びマークしなさい。解答番号は 26。

- 1 創世
- 2 来歴
- 3 人間集団(部族)
- 4 紐帯

問七 傍線部j「部族の組織化」とあるが、「組織化」によってどうなったか。次の1～4のうちから最も適当なものを一つ選びマークしなさい。解答番号は 27。

- 1 他の部族によって早々に滅ぼされた。
- 2 高度で思弁的な物語を創作することができるようになった。
- 3 大集団の統合と組織的分業が可能になった。
- 4 神話が「物語」として形成されることになった。

問八 傍線部m「人々の心を動かし集団で共有される物語には共通性がある」とあるが、その共通性はどのようなことか。次の1～4のうちから最も適当なものを一つ選びマークしなさい。解答番号は 28。

- 1 極めてシンプルで普遍的な三種類の要素の組み合わせによって成立するということ。
- 2 極めてシンプルで普遍的な因果応報、恋愛、英雄という三つの要素に大別されるということ。
- 3 全ての物語は、因果応報、恋愛、英雄という要素を三つとも持っているということ。
- 4 物語の中には、昔も今も、東洋人にも西洋人にも共有されるただ一つの英雄譚があるということ。

問九 傍線部 n「物語の共通性と同様の構造が言語そのものにも見ることができるとあるが、「同様の構造」とはどのようなことか。次

の 1～4のうちから最も適当なものを一つ選びマークしなさい。解答番号は 29。

- 1 自然言語が世界で七〇〇〇以上あるということ。
- 2 世界にある言語は多様で千差万別であるということ。
- 3 人間の脳には情報処理回路があるということ。
- 4 普遍的パターンが存在するということ。

問一〇 この文章は、物語の持つ機能や性質について書かれたものであるが、内容的に合致しないものはどれか。次の 1～4のうちか

ら一つ選びマークしなさい。解答番号は 30。

- 1 物語による認知について書いてある。
- 2 物語による組織化について書いてある。
- 3 物語の持つ矮小化について書いてある。
- 4 物語の持つ普遍性について書いてある。

次ページ以降にも問題があります。

**問題三** 次の文章を読んで、後の問に答えなさい。

もう、その植物に生い茂る力はない。

葉の色もすっかり薄くなってしまい、あの青々と葉を茂らせていたときの様子は見る影もない。<sup>a</sup>  
それどころか、葉の色は日に日に色あせていく。

葉は、少しずつ水気を失って、枯れていく。

あんなに茂っていた葉も、今ではもう、次第に枯れていくばかりなのだ。

新しい葉をつけることもない。新しい茎を伸ばすこともない。

もう二度と、草丈が伸びることもなければ、茎が太くなることもないのだ。

もう花を咲かせることもない。

<sup>b</sup>最後に花を咲かせたのは、ずいぶん前のことだ。

残された日々、その植物は、ただ枯れていくのだ。

しかし……

やがて、その植物は実を結ぶ。

その実りは黄金色に輝き、葉が枯れれば枯れるほど、実りは大きくなっていく。

そして日に日に、重たく重たくなっていく。

実れば実るほど、<sup>c</sup>その植物は重たそうに、頭を下げていく。

このように、その植物は最後の最後に大いなる実りをもたらすのだ。

「実るほど頭こめくを垂れる稲穂かな」

その植物は、イネである。

イネにとって「老いる」ことは、米を「実らせる」ことである。

植物であるイネにとって、もつとも重要なことは、米を実らせることである。

葉を茂らせてせつせと光合成をしてきたのも、懸命に茎を伸ばし、稲穂に花を咲かせたのも、すべては、米を実らせるためなのだ。

A、イネにとっては「老いの時期」こそが、もつとも重要な時期である。

イネを知り尽くした農家の方が管理する田んぼでは、滅多にそんなことはないが、ときどき、秋になっても葉を青々とさせているイネを見かけることがある。

他の田んぼでは、イネは黄色く枯れているのに、その田んぼでは、イネはいつまでも緑の葉を茂らせている。

緑の葉で光合成を行い、茎も葉もオウセイfに茂っている。

その姿は、とても若々しい。

しかし、どうだろう。<sup>g</sup>

これらのイネでは、実りが遅れ、収穫される米も少ない。

じつは、土の中の肥料分が多すぎると、イネはいつまでも葉を成長させてしまうのだ。

窒素は、イネの成長には不可欠の大切なものである。しかし、それは茎や葉を茂らせるためのものだ。

しかし、米を実らせる「老いのステージ」のイネにとって、肥料はもう unnecessary なものである。

「老いのステージ」では、もう葉を茂らせる必要はない。イネは今まで蓄えた栄養分を集めて、米を実らせていく。

B、田んぼは黄金色に輝くのだ。

農家の方はそれがよくわかっているから、イネの実りのステージには、肥料が切れるように肥培管理をしている。一方、肥料分が多すぎると、イネは葉を茂らせることに夢中になってしまふ。

いつまでも、若々しく見えるイネは、本来あるべきイネの姿を忘れてしまっているのだ。

C、いつまでも夏が続くわけではない。

季節は巡り、確実に秋は深まっていく。

青々と若々しいイネにも、やがて寒い季節はやってくる。そして、若々しい姿のまま、その季節を迎えてしまうのだ。

「実って死んでいく」のか？

それとも「枯れて死んでいく」のか？

イネにとって、「老い」とは、新たな成長のステージである。

そして、それは、実りをもたらず最も重要なステージである。

これは、イネの話である。

しかし、どうだろう。

もしかすると……「老いる」ということは、私たち人間にとっても、こういうことなのではないだろうか。

イネには、大きく分けて三つの成長がある。

最初のステージは、茎を増やし、葉を茂らせるステージである。

田植えをしたとき、イネの苗はまだ、茎が一本である。実際には、この茎一本の苗は二、三本まとめて植え付けられる。その後、イネの苗は、茎の数をぐんぐん増やし、勢いよく葉を茂らせていく。

まさに伸び盛りの子どもたちや、若々しい青年を見るかのようだ。

このステージは、「栄養成長期」と呼ばれている。

しかし、やがてその成長は終わりを告げる。茎の数はピークを迎え、それ以上増えなくなるのである。

茎の数がピークを迎えると、イネは次に茎を伸ばす。そして、穂を出して花を咲かせるのだ。  
このステージが「生殖成長期」である。

花を咲かせる、まさに大人の時代と言っていいたいだろう。

そして、花を咲かせた後は、イネは米を実らせる。このステージが「登熟期」と呼ばれるものである。

登熟期になると、イネはもう茎を増やすことも、葉を茂らせることもない。茎の高さが高くなることもない。「茎の数」や「茎の長さ」など、見た目の数字にこだわる人には、このイネは成長していないように見えるだろう。

**D**、茎や葉は枯れ上がり、日に日に衰えていくようにさえ見えることだろう。  
しかし、真実は違う。

登熟期の成長は、外からは見えにくい。

このステージでは、これまでの成長で得た栄養分を米に蓄積していく。そして日に日に、米の重さが重たくなっていくのだ。  
このステージの成長は、今までのステージとはまったく異なる。

若いイネでは持ち得なかった「米」を実らせていくのだ。

葉の栄養分を米に送り込む仕組みは「転流」と呼ばれている。イネは、これまでの栄養を転流によって「米の実り」に変えていくのだ。  
こうして、葉が枯れ上がる一方で、米は日々重くなっていく。

これが「登熟期」というイネの最後のステージの成長である。イネにとって、もつとも大切なものは「米」である。  
この登熟期の成長で、イネのシンカkが問われるのだ。

生物にとって、成長とはステージが進むことである。

もし、生物が年を経ることが「老い」であるならば、生物は生まれた瞬間から老いていく。

もし、生物が年を経ることが「成長」であるならば、生物は死ぬまで成長を続けていく。

成長とは、単に大きくなることではない。

**E**、大人のチョウと、その子どもであるイモムシを比べると、イモムシのほうが大きい。あるいは、大人のカエルと、その子どもであるオタマジャクシを比べると、オタマジャクシのほうが大きい。

成長とは、体が大きくなることではない。ステージが進んでいくことなのだ。

イモムシはサナギというステージを経て、チョウというステージに進む。オタマジャクシは後ろ足が生えて、前足が生えて、最後には、しっぽがなくなるといふステージを迎える。

失うこともまた、成長なのだ。

そして、オタマジャクシはカエルというステージに進んでいくのである。人間にも「子どもの時代」と「大人の時代」というステージがある。そして、「若い」といふステージがある。若いというステージに進んでいくと考えれば、「若い」もまた、成長なのだ。

(稲垣栄洋『生き物が老いるということ 死と長寿の進化論』による)

問一 傍線部 a・d の語句の意味はなにか。次の 1～4 のうちから最も適当なものをそれぞれ一つずつ選びマークしなさい。解答番号

は 31 ・ 32 。

a 「見る影もない」

- 1 ひどすぎて見て見られない
- 2 気の毒で見えて見られない
- 3 すっかりみすぼらしくなり、みじめである
- 4 それ以上、黙って見て見られない

d 「せつせと」

- 1 休む間もなく熱心に行うさま
- 2 ほどほどに抑えているさま
- 3 気負ったり威張ったりするさま
- 4 すっかり夢中になっているさま

問二 傍線部b「最後に花を咲かせたのは、ずいぶん前のことだ」とあるが、具体的にはいつのことか。次の1～4のうちから最も適当なものを一つ選びマークしなさい。解答番号は 33。

- 1 栄養成長期
- 2 生殖成長期
- 3 登熟期のはじめ
- 4 登熟期のおわり

問三 傍線部c「その植物は重たそうに、頭を下げていく」とあるが、このような表現技法のことをなんとというか。次の1～4のうちから最も適当なものを一つ選びマークしなさい。解答番号は 34。

- 1 省略法
- 2 反復法
- 3 倒置法
- 4 擬人法

問四 空欄 A E にあてはまる接続語の組み合わせはどれか。次の1～5のうちから最も適当なものを一つ選びマークしなさい。解答番号は 35。

- |   |   |           |   |        |   |      |   |           |   |           |
|---|---|-----------|---|--------|---|------|---|-----------|---|-----------|
| 1 | A | それどころか    | B | そして    | C | しかし  | D | そのうえ      | E | そうであるとすれば |
| 2 | A | そして       | B | そのうえ   | C | なぜなら | D | それどころか    | E | たとえば      |
| 3 | A | それとも      | B | それどころか | C | そのうえ | D | しかし       | E | したがって     |
| 4 | A | そのうえ      | B | それどころか | C | たとえば | D | そうであるとすれば | E | ところで      |
| 5 | A | そうであるとすれば | B | そして    | C | しかし  | D | それどころか    | E | たとえば      |

問五 傍線部 e「イネを知り尽くした農家の方が管理する」とあるが、具体的にはどのように管理するのか。次の 1～4 のうちから最も

適当なものを一つ選びマークしなさい。解答番号は 36。

- 1 イネにいつまでも緑の葉を茂らせるように肥培管理をする。
- 2 イネの実りのステージに肥料が切れるように肥培管理をする。
- 3 イネの茎の数や茎の長さなどの数字にこだわり肥培管理をする。
- 4 イネが秋になっても緑の葉で光合成を行うように肥培管理をする。

問六 傍線部 f・k と同じ漢字を含むものはどれか。次の 1～4 のうちから最も適当なものをそれぞれ一つずつ選びマークしなさい。

解答番号は 37 ・ 38。

f「オウセイ」

- 1 私は毎年夏、募参りにキセイする。
- 2 私たちのチームは終始ユウセイを保っている。
- 3 裁判長は法廷に向かってセイシユクを命じた。
- 4 彼らは私のためにセイダイなパーティーを開いてくれた。

k「シンカ」

- 1 この焼き魚はシンクウパックで新鮮さが保たれている。
- 2 高校野球の全国大会でシンパンが選手に語りかけた。
- 3 貴社のご愛顧とご厚情に、衷心よりシンシャいたします。
- 4 相続税のシンコクをするために税務署に行った。

問七 傍線部g「しかし、どうだろう」という表現には、筆者のどのような気持ちが込められていると思うか。次の1～4のうちから最も

も適当なものを一つ選びマークしなさい。解答番号は 39。

- 1 いつまでも緑の葉を茂らせ、若々しいイネに対して肯定的にみている。
- 2 他の田んぼの黄色く枯れたイネに対して否定的にみている。
- 3 いつまでも緑の葉を茂らせているイネに対して否定的にみている。
- 4 農家の方が管理する、秋になっても青々としているイネを肯定的にみている。

問八 傍線部h「本来あるべきイネの姿」とあるが、具体的にはどのようなものか。次の1～4のうちから最も適当なものを一つ選び

マークしなさい。解答番号は 40。

- 1 若々しい姿のまま寒い季節を迎える。
- 2 秋になつて黄色く枯れる。
- 3 秋になつても光合成を行い、茎も葉も茂る。
- 4 秋の終わりになつて稲穂に花を咲かせる。

問九 傍線部i「老いる」ということは、私たち人間にとつても、こういうことなのではないだろうか」とあるが、具体的にはどのような

なことか。次の1～4のうちから最も適当なものを一つ選びマークしなさい。解答番号は 41。

- 1 最も重要なステージに進むこと。
- 2 葉を茂らせるステージに進むこと。
- 3 栄養成長期というステージに進むこと。
- 4 穂を出して花を咲かせる、大人というステージに進むこと。

問一〇 傍線部「今までのステージとはまったく異なる」とあるが、どのような点で異なっているのか。次の1～4のうちから最も適

当なものを一つ選びマークしなさい。解答番号は 42。

- 1 実質的にも外見的にもイネの成長が止まる点。
- 2 茎や葉は枯れ上がり、日に日に衰えていく点。
- 3 外からは見えにくいのが、転流によってコメを実らせていく点。
- 4 成長が止まったあと、穂を出し花を咲かせる点。

問一一 この文章において、筆者の考える生物の「成長」とは、言えないことはどれか。次の1～4のうちから一つ選びマークしなさい。

解答番号は 43。

- 1 ステージが進むこと。
- 2 単に体が大きくなること。
- 3 失うこと。
- 4 年を経ること。